

## 1. 海外視察報告: イギリスにおける学校と地域等の連携(1)

2012年10月に国立行政法人教員研修センターが主催する「教育課題研修指導者海外派遣プログラム」にシニアアドバイザーとして参加する機会を得ました。教育課題には「学校と地域等の連携」が設定されており、訪問先はイギリスでした。イギリスは私の研究フィールドであり、1999-2000年かけてランカスター大学客員研究員として滞在した国でもあり、非常に興味深い視察となりました。訪問先は下表の通りです。教育行政や初等中等学校、特別支援学校、継続教育カレッジ、冒険遊び場協会等、多様な学校や機関を訪問することができました。

訪問日	滞在地	訪問先
10月10日(水)	Manchester	Salford TEN Centre (教育行政機関)
10月11日(木)	Lancaster	Ellel St. John's Church of England Primary School (初等学校)
		Beaumont College of Further Education (特別支援カレッジ)
10月12日(金)	Manchester	Manchester Communication Academy (中等学校)
		E-ACT Blackler Academy (初等学校)
10月15日(月)	London	London Play (冒険遊び場協会)
		Glamis Adventure Playground (冒険遊び場)
10月16日(火)	London	Haverstock School (中等学校)
		Whitchurch First School and Nursery (初等学校)
10月17日(水)	London	Barnet and Southgate College (継続教育カレッジ)
		Oakleigh School (特別支援初等学校)
10月18日(木)	London	Hampton Hill Junior School (初等学校)

今回の訪問で最もインパクトが大きかった学校はマンチェスター コミュニケーション アカデミーでした。滞在するホテルからアカデミーまでバスで移動しましたが、学校に近づくにつれて公営住宅らしき5~6階建ての集合住宅が立ち並ぶようになりました。1階2階あたりの窓ガラスが割れていたり、それを覆うように板が張られているのを見て、少し不安が横切りました。しかし、到着したアカデミーは真新しい建物で、太陽の光を浴びてまぶしいくらいでした。エントランスも立派で、さすが産業革命期に世界を牽引した工業都市マンチェスターの学校だと感嘆しました。それもつかの間、その感嘆はすぐに別の意味での驚きに変わりました。

このアカデミーはマンチェスターでも最貧に位置づけられる地に建設された中等学校です。常識では考えられないほど高い失業率と多数のスニークマイノリティが居住する地域で、治安の面でも不安な街だということでした。次代を担う若者を育てる教育にとって「貧困」や「経済格差」は負の連鎖を生む大きな要因となってしまいます。それを断ち切ろうと、積極的是正措置として建てられた学校でした。

教育を理念として語ると、人は法の下に平等であって、義務に限らず教育は誰であろうと等しく享受できる権利をもち、生まれもった家柄や財産とは関係なく、学びの成果に応じて適正な評価がなされるはずです。しかしながら現実には家庭環境によりその教育の質が大きく左右されることとなります。さて、この課題をどのように克服しようとしているのでしょうか。

誤解を恐れず表現すると、貧困の連鎖を断ち切るために家庭や地域から生徒を引き離すことを意識的に行っているのです。一日の一定時間、現実の社会から学校に隔離されて、正義や公正、平等など近



【写真1:アカデミーの外観】



【写真2:休憩時間の中庭】

代社会の価値に守られた場所で子どもが過ごすのです。学校内では平等が保たれなければならない、教材教具はもとより制服から靴まで一切適切に国が財源が充てられているのです。家庭で食事が与えられない生徒に対しては、無料の朝食サービスを施したり、給食は生徒全員に無償で提供したり、課外のクラブ活動も同様でした。徹底した実験学校(アカデミー)なのです。

少し過激に書きすぎたかも知れませんが、実際には保護者を含む地域の成人や外国人に対して識字教育を行ったり、生徒が使用しない時間帯には地域の人にも使ってもらったり、学校と地域の絆や信頼関係の構築にも配慮しています。コミュニティスクールのひとつの特徴は、学校の用途が在学する生徒のためだけにあるのではなく、広く地域社会に開かれていることでもあるのです。

このアカデミーのメインスポンサーはBT(British Telecom)です。教育効果を高める備品の提供を行ったり、最先端技術者等による授業を実施したり、物心両面において大きな役割を果たしています。もちろん、企業の代表者も理事会に加わり、学校の経営理念や教育理念、運営方針、授業評価等に対してチェック機能を働かせています。この理事会の権限と責任は重く、人事権と予算をもっています。計画に対する評価が芳しくなければ理事や校長は責任を取らされます。日本の風土には到底合いませんが、とてもいい刺激を受けることができました。

文責:清國祐二



【写真3:「ドラマ」の授業】

## 2.『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告第18号』について

当センターでは毎年度『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』を発行しております。生涯学習を研究する本学教員、センターが主催する講座等を担当した本学教員、また、センターが主催する講座等を担当した学外講師で編集委員会が認めた者であれば、どなたでも投稿することができます。

本年度は担当教員に加え、センター外から多数ご投稿頂き、充実した内容になりました。ご協力頂きました先生方には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

### <第18号目次>

1. 高齢者を対象とした万引き防止のための教育プログラムの開発と実践  
岡田涼(教育)、大久保智生(教育)、時岡晴美(教育)、  
堀江良英(香川県警察本部生活安全企画課)、松下昌明(香川県警察本部生活安全企画課)
2. 社会人と大学生を対象とした万引き防止のための教育プログラムの開発と実践  
岡田涼(教育)、時岡晴美(教育)、大久保智生(教育)、  
清國祐二(生涯学習教育研究センター)、永富太一(社会連携・知的財産センター)
3. 学校支援ボランティア参加者からみた学校支援地域本部事業の成果と課題  
～岡山県備前中学校における実態調査から～ 時岡晴美(教育)・大久保智生(教育)・岡田涼(教育)
4. ドストエフスキー『白痴』における二つの愛 中谷博幸(教育)
5. マインドマップと整読用フォーマットの効用～専門学校での活用実践を中心として～ 高倉良一(教育)
6. ソーシャルメディアを活用した学習支援～香川大学公開講座での実践を通して～  
長尾敦史(地マネ)、板倉宏昭(地マネ)
7. 科学技術理解増進活動における体験イベントと草の根活動の併用による理解増進効果  
石原秀則(工)、能見公博(工)、倉増敬三郎(社会連携・知的財産センター)
8. 村山籌子の評伝の試みをめぐって～聞き書きのこと～ 山崎怜(名誉教授)
9. イギリスにおける学校と地域との連携 清國祐二(生涯学習教育研究センター)
10. 大学拡張の一形態としての巡回講演に関する覚書～大正15年7月の『香川新報』を手掛かりとして～  
山本珠美(生涯学習教育研究センター)

### センター雑感

3月20日に瀬戸内国際芸術祭が始まりました。香川大学プロジェクト「コミュニティ放送局と連携した特集番組の制作」が採択されましたので、次年度はその進捗状況についてもお知らせしたいと思います。引き続きよろしくお祈りします。(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧下さい。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp